

**兵庫県立加古川病院**

〒675-8555  
加古川市加古川町粟津770-1  
TEL.0794-23-0001  
FAX.0794-23-3820  
E-mail.kenkako@blue.ocn.ne.jp  
<http://www6.ocn.ne.jp/~kakogawa/>

**広報誌創刊号**

院長 佐藤 茂秋

**基本理念**

常に最良の医療の提供と、疾患の予防に努め、地域と県の安寧と発展に資することを目標とします。

**基本方針**

- 1 地域の中核病院として、医療内容を充実するとともに、急性期医療を提供します。
- 2 患者様本位のより良質な医療を提供できるよう自己研鑽に努めます。
- 3 地域の医療連携のもと、生活習慣病の予防と早期発見・早期治療に努めます。

**ごあいさつ**

いつの世でも、病気とそれによる死は人生の最大の関心事の一つであって、その不安の解消あるいは軽減が医療従事者の本来唯一の任務です。当院は改めてこの任務を自覚し、その目的達成のため職員一同最大限の努力をしています。癌の手術療法・化学療法・放射線療法による集学的治療、眼科や耳鼻咽喉科領域の手術、スポーツ等による障害の整形外科的治療、泌尿器系の病気の治療、糖尿病治療等の領域、放射線治療機のリニアックをはじめ多くの診断機器の更新を近く行いながら更に充実、発展させます。これらに加え癌、心臓病、脳卒中、高血圧、高脂血症、肥満等いわゆる生活習慣が深く関連している病気の予防のため、個人個人の生活態度や人生観を考慮した相談、指導の窓口も開く予定です。癌については当県に多いにも拘わらず、あまり人々が気にしていない肝炎ウイルスによる肝障害から起こる肝癌の発生を、インターフェロン等による積極的治療を組織的に行って抑止することを目指します。ウイルス肝炎になっても、この治療で約半分の人々の肝癌発生が抑えられることが明らかになっており、兵庫県全体の肝癌死亡が半分になると、全国的に非常に悪いところにあった当県の癌全体による死亡が全国以下に下がります。

当院は訪れる方々の便宜のための院外処方昨年12月に実行しました。診療所から紹介された初診の方々が長く待たないですむような体制も、昨年10月から整えました。何でも気軽に相談を行えるように医療相談員も既に配備しています。その他文書による諸々の苦情、提案の受付も行っており、病院の改善に役立たせております。当院は制度上、時間外の救急は一般的には受付けておりませんが、かかりつけの患者様に対しては不満のない様な対応をより充実させます。

県の方針として近い将来病院の建て替えということになるかも知れません。また、地域の中心的な救急救命センターが当院に併設される可能性もあります。同時に危険性の高い感染症に対応する設備の充実や終末期医療等も課題となるでしょう。その時にも本来の医療機関としての使命を忘れず、訪れる方々には全人的な見地から接する様に心掛けます。地域、全県の人々の病気のみでなく、心身の健康の維持、増進のために、これからより一層全職員が全身全霊込めて努力して行く所存です。当院の今後の発展にご期待下さい。

## 診療部紹介

## 内 科

当診療科は、平成15年度に新メンバーが加わり常勤スタッフ7名と研修医2名が一丸となって、急性疾患から慢性疾患、悪性腫瘍にいたる幅広い疾病の診療を行っています。また糖尿病、消化器、肝臓、循環器疾患についてはそれぞれ専門医が中心となって専門性の高い医療を行っています。さらに院内はもとより院外からのセカンド・オピニオンにも積極的に対応してゆこうと思っています。一方、患者様に対しては平易かつ詳しい病状説明を行いインフォームド・コンセントにもとづいた診療とケアを心掛けています。



入院患者については新患カンファレンス、重症患者カンファレンス、内視鏡カンファレンスで検討を行い、コンセンサスが得られた治療方針で診療しています。外来診療は、一般内科、消化器内科、循環器内科、糖尿病内科の4診が毎日あり、特殊外来として東洋医学科外来が週2回、神経内科外来が週1回あります。高齢化に伴い内科疾患に限っても複数の疾患を合併しているケースが多くなってきましたので、内科の中でも専門医が連携してフレキシブルに対応しています。

ここで各専門分野について紹介しましょう。糖尿病は代表的な生活習慣病で、予備軍まで含めるとわが国に1,600万人以上の患者様がいるといわれています。他の生活習慣病とも深くかかわっています。こういった予備軍や糖尿病と診断されて間もない患者様に対しては、2週間のクリニカル・パス入院を設定しており、合併症を含めた精密検査はもとより糖尿病教育、栄養指導、運動療法の指導を行って糖尿病を正しく理解していただくことに努めています。また一般の方々も含めて広く糖尿病を学んでいただくために定期的に開催している糖尿病教室は今年で250回を超えました。

消化器疾患については、近年急速に進歩した最新の医療機器を用いて早期発見、早期治療を心掛けています。診断では、内視鏡、超音波を用いて急性・慢性疾患のスクリーニングから精密検査まで幅広く行っています。さらに造影超音波、超音波腫瘍生検、超音波内視鏡など癌の早期診断、的確なステージ診断を行っています。一方治療では、消化管ポリープや早期癌の内視鏡的切除術、胆道・膿瘍ドレナージと載石術、消化管出血に対してクリップや高周波を用いた止血療法、食道静脈瘤の結紮術・硬化療法、肝癌に対してはエタノール注入療法、ラジオ波焼灼療法など、あらゆる疾患に幅広く対応しています。

循環器疾患では、診断においては心エコー、ホルター心電図解析、トレッドミル負荷心電図、負荷心筋シンチなどをルーチン検査としており、不整脈や虚血性心疾患の早期診断に力を入れています。高血圧を代表とする循環器疾患の背景には動脈硬化が深くかかわっていることが多く、また放置すれば心筋梗塞、脳梗塞、さらには心不全や腎不全など生命を脅かす疾患に進展する可能性があり、これらの疾患の早期診断と的確な管理・きめ細かな治療を行っています。

最後に、当診療科は新生スタッフに変わってまだ半年余りですが、地域医療さらには兵庫県下の医療に貢献できるようがんばりたいと思います。

## 放射線科紹介

職員は医師2名、看護師3名、診療放射線技師11名、受付1名で構成されています。

放射線科は全診療科の患者様に対して、一般撮影装置・X線テレビ装置・乳房撮影装置・断層撮影装置・MRI・CT・RI・血管撮影装置・放射線治療装置等を配備し地域基幹病院としての使命を果たすべく、高度先進医療に対応しています。

各種検査・放射線治療は**オープンシステム**を採用していますので、放射線科受付(内線241)までご連絡下さい。

### 診療内容

**画像診断**では放射線専門医・看護師・放射線技師のチーム医療による特殊検査や放射線技師等による一般撮影・X線テレビ・MRI・CT・RI等の画像情報を放射線専門医が読影することにより患者様の病態がどのようなものかを診断します。血管造影検査を利用した**低侵襲性治療 IVR**も放射線専門医が行います。**放射線治療**は放射線専門医・看護師・放射線技師がチームとなり患者様に最適な放射線治療を行っています。

★★

## 検査部紹介

検査部は、2階に検査室10を有し、18名の臨床検査技師が、医師の依頼を受け、診断・治療に必要な検査データを提供する専門的業務を担当しています。

**心電図肺機能室**；不整脈や狭心症、肺の働きを調べます。

**脳波筋電図室**；てんかんや脳血管障害を疑うときに検査します。

**超音波検査室**；現在は主に心臓超音波で、すべての心疾患に有用な検査です。

**病理検査室・病理診断室**；細胞組織の病名診断をします。

また、手術中の迅速診断で手術範囲を最小限にとどめることができます。

**血液検査室・血清検査室・生化学検査室**；血液を検査し、肝臓、膵臓、腎臓の機能障害の有無や糖尿病、貧血、腫瘍、アレルギーの原因などを調べます。また、血液型や輸血に必要な検査もします。

**尿検査室**；腎機能障害の有無や、妊娠反応を検査します。

**細菌検査室**；病原菌を検出し、抗菌薬を調べます。院内感染防止にも重要な検査です。

★★

## 薬剤部紹介

平成15年11月25日から、院外処方箋の発行を行い、従来の外来患者様を中心とした業務から、入院患者様を中心とした業務へと質の展開を図っています。

このことにより、服薬指導業務の拡大、充実を図り、入院患者様に薬の効果・服用方法・副作用等について説明を行うとともに、相互作用、副作用のチェックなど、薬を安全かつ有効に使用されるよう薬剤管理指導を通して薬物治療に深く関わっています。また、医薬品情報の収集と院内関係者への情報提供、医薬品の管理、糖尿病教室への参加、治験薬の管理等の業務を実施しています。

医薬品が関与する医療事故の発生が多い近年、医薬品に関するリスクマネジメントへの取り組みとして、がん化学療法時におけるプロトコルの管理を実施しています。今後は抗がん剤、高カロリー輸液等の注射薬混合業務を実施し、薬に関わる患者様の安全管理は薬剤部が全面的に責任を負うことが出来る組織を目指しています。

## 看護部紹介



### 中央3階病棟

中央3階外科病棟は、看護師が25名います。固定チームナーシング、継続受け持ち制の看護体制を取り患者様の把握を十分に行い継続した看護ケアの充実を図っております。

当病棟では、消化器外科を中心に乳腺外科、ヘルニア、肛門外科まで幅広く治療が行われています。最近では傷が小さく退院も早い腹腔鏡下手術や、乳がん検診により乳がん手術などが増加しています。

入院、手術、化学療法、検査など不安な心理状況に置かれている患者様の生命を安全に守るため、我々は細心の注意をはらい看護を行っています。笑顔、温かい言葉、心細やかな看護を通じて患者様に、「心のこもった看護を提供したい」と考えております。



### 東2階病棟

#### 整形外科

手術を受けられる患者様に対して、安心して手術が受けられ順調に回復できるように受け持ち看護師が中心となって個別に関わっています。



#### 内科

身体的苦痛を伴う急性期の患者様の苦痛の除去や糖尿病などの生活習慣病の患者様への家族を含めた指導を行い、再発・増悪の予防に努めています。



#### 放射線科

放射線治療を受ける患者様の身体的・精神的苦痛を緩和できるような看護を心がけています。



### 編集後記

当院の初めての広報誌です。これからも続けて発行したいと思いますので応援してください。

編集委員 尹 聖哲・桑島恭二・原田亮輔・福田優子・峯垣明美・辻本浩子・赤松幸和